

は、専門分野や進路の決定などについては各人の意思を最大限尊重し多様な希望にも柔軟に対応するため、言わばオーダーメイドの研修も可能であることが挙げられる。加えて、国内外への留学を積極的に勧めており、過去14年間で約70名が希望する国内外の施設で臨床研修や研究を行っていることも特筆される事項である。

当面の課題

落ちがなく効率のよい研修を行うためには研修目標を設定し、その達成度を評価することが重要である。この小児科後期研修プログラムにおいては、未だその点で十分とは言えない。特に前半の小児科全般の研修は複数の病院をローテートする

こともあり、次の研修病院を決めるためにも、その時点で既に習得したことや更なる研修が必要な分野等を把握しておく必要がある。より具体的な行動目標を設定すること、および研修医や関連病院指導医を交えた研修の評価システムを構築することが当面の課題と言える。

また、最近女性医師が増加しつつあり、この傾向は今後も続くことが予想される。家庭を持つ女性医師が研修を継続するための支援を充実させることも重要である。

文 献

- 1) 小林武弘：必修科目としての小児科研修の現状と問題点. 新潟医学会雑誌 121: 250-253, 2007.

5 新潟大学整形外科における後期研修の目指すところと現状

遠藤 直人

新潟大学大学院医歯学総合研究科
機能再建医学講座整形外科学分野
(医学部整形外科学教室)

The Goals of the Course in Orthopedic Surgery in Niigata University

Naoto ENDO

*Division of Orthopedic Surgery Department of Regenerative and Transplant Medicine
Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences*

はじめに

新臨床研修制度が平成16年、2004年に開始さ

れ、平成18年4月にはその一期生が後期研修を開始した。いままでとは異なるシステムであり、大学以外に多くの研修病院も後期研修医を受け入

Reprint requests to: Naoto ENDO
Division of Orthopedic Surgery Department of
Regenerative and Transplant Medicine
Niigata University Graduate School of Medical
and Dental Sciences
1-757 Asahimachi - dori Chuo - ku,
Niigata 951-8510 Japan

別刷請求先: 〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757
新潟大学大学院医歯学総合研究科機能再建医学講座
整形外科学分野 (医学部 整形外科学教室)
遠藤 直人

れての制度である。この時期に後期研修、特に新潟大学整形外科における後期研修の目指すところと現状を報告する。

後期研修医は何を求めているか

後期研修のプログラムを作るうえでまず、最初に検討し、理解すべきことである。現時点で、後期研修医は「その領域の臨床技量を持った専門医を目指している」と思われる。したがって其の意向を十分に組み入れたプログラム作りをすることが後期研修医を集めることにもつながるものと思われる。それを基に考えると、

- 1) 研修医が求めるものに対応している内容のプログラムであること
- 2) 一方、大学として提供できるプログラムはどのようなものか、検討してみる必要がある。大学：医学部および大学病院としてのプラス面、マイナス面を検証して再検討することである。其の上で
- 3) 大学としての特徴あるプログラム作成することであるが、大学以外の研修施設、或いは県外の大学、病院でも工夫されたプログラムがあることから、新潟大学ではそれらとは異なる特徴あるプログラムが望ましいであろう (表 1)。

大学病院 (医学部を含めて) の特徴

プラス面と考えられる点は卒前、卒後教育、臨床実習を過去から現在にいたるまで長年にわたり担当してきており、一貫したシステムと経験あるスタッフを有することである。さらに大学病院は大規模で多くの科がある、したがって多数・多種の症例が豊富で経験を積む機会が十分にある。

加えて専門医師参加の検討会が日々、各科、各専門領域でひらかれており、最先端・超専門領域の知識・情報を得やすく、実践を見学・研修ができることであろう。

また“連携のある”関連病院が多数あり、共通プログラムあるいは連携プログラムを作成することで、第一線プライマリケア、外傷など大学病院

表 1 「後期研修医は何を求めているか」
研修医はその領域の臨床技量を持った専門医を目指していると思われる

後期研修における研修施設 (大学) が準備すべきプログラムの特徴

- 1) 研修医が求めるものに対応している内容
- 2) 大学として提供できるプログラムはどのようなものか
大学のプラス面、マイナス面を検証して再検討する
- 3) 大学としての特徴あるプログラム作成へ
大学以外の研修施設、或いは県外の大学、病院でも工夫されたプログラムがあることから、新潟大学ではそれらと比較して (他よりも) 優れたもの、特徴あるものでなければならない

では経験不十分な領域を補完することができることである。

学内に限らず、学外での研修会、研究会、セミナーなどへの参加の機会を得やすいことが挙げられる。

一方、マイナス面とみなされている点は研修医には専門すぎる内容、手順・手続きなど煩雑である、他科との連携が必ずしも迅速、充分ではないこと、研修医としての待遇が他の市中病院に比してよいとはいえないこと、さらに関連病院には地域にあるものもあり、地域 (いわゆる都市部以外) 勤務を強いられるのではないかと不安を抱く可能性もあることであろう。情報が充分にはいきわたらず、適切な見方ではない点もあろうが、一方で他の病院との比較で十分でない点については検討の余地がある (表 2)。

新潟大学整形外科の特徴と 2006 年における後期研修

新潟大学整形外科は 1917 年 日本で 4 番目に開講された整形外科講座である。現在、430 名以上の同窓が勤務医、開業医、地域医療、製薬会社などで臨床、研究などに従事している。2006 年は 6 人の後期研修医 (レジデント) が研修開始している。

整形外科では「質の高い、安全な医療を提供できる整形外科医の育成」を目標としている。すな

表2 大学病院(医学部を含めて)の特徴 (プラスとマイナス)

プラス面と考えられる点:

- 卒前、卒後教育、臨床実習を担当しており、一貫したシステムと経験あるスタッフを有する
- 大学病院は大規模で多くの科がある⇒多数・多種の症例が豊富
- 専門医師参加の検討会がひらかれており、最先端・超専門領域の知識・情報を得やすく、実践を見学・研修ができる
- “連携のある”関連病院が多数ある。第一線プライマリケア、外傷など大学病院では経験不十分な領域を補完することができる
- 学内に限らず、学外での研修会、研究会、セミナーなどへの参加の機会を得やすい

マイナス面とみなされている点

- 研修医には専門すぎる内容
- 手順・手続きなど煩雑
- 他科との連携不良
- 研修医としての待遇が悪い
- 関連病院の地域性があり、勤務を強いられるのではないかと不安

表3 新潟大学整形外科の特徴と2006年における後期研修

新潟大学整形外科は1917年 日本で4番目に創立された整形外科講座である。現在、430名以上の同窓が勤務医、開業医、地域医療、製薬会社などで臨床、研究などに従事している。2006年は6人の後期研修医(レジデント)が研修開始している。

質の高い、安全な医療を提供できる整形外科医の育成

- 1) 患者さんを総合的、包括的に診療・治療できる
- 2) 高い臨床技量を持つ整形外科専門医
- 3) チーム医療を実践、関連職とコミュニケーション取れる

わち、

- 1) 患者さんを総合的、包括的に診療・治療できる能力と人間性を有すること
- 2) 高い臨床技量を持つ整形外科専門医と
- 3) チーム医療を実践、関連職とコミュニケーション取れる整形外科医を目指すものである(表3)。

医師の新(平成16年以降)臨床研修制度における整形外科領域の研修項目

研修到達目標として「プライマリケアの基本的診療能力を習得すること」が謳われており、経験すべき症状、病態、疾患:頻度の高い症状がリス

表4 医師の新(平成16年以降)臨床研修制度における整形外科領域の研修項目

研修到達目標:プライマリケアの基本的診療能力を習得

経験すべき症状、病態、疾患:頻度の高い症状

- 腰痛
- 歩行困難
- 四肢の痺れ
- 関節の腫脹と疼痛

緊急に初期対応が必要

- 外傷:開放創、骨折、脊髄損傷
- 熱傷

経験が求められる

- 骨折
- 関節の脱臼、靭帯損傷
- 骨粗鬆症
- 腰椎椎間板ヘルニア

**スポーツ傷害への対応
学童の成長の健診**

肘、膝障害
側彎症検診

- ・学童、高校生から一般の方
- ・スポーツ選手：国体、プロなど

健康増進へ寄与する領域

**高齢者、自立障害者
への対応**

骨折
骨粗鬆症
寝たきり防止

高齢者、虚弱者、要介護者

プライマリケア
健康寿命の延伸
QOL増進に貢献する領域

図2 整形外科では若年から高齢者まで幅広い年齢層を対象にしており、高齢者医療、プライマリケアまで含めた医療を研修できる

整形外科後期専門研修プログラム

- ・多数のコースを準備し、多彩な希望に対応
- ・関連病院との連携により補完し、広く、深い研修内容

		卒後1	2	3	4	5	6	7	8	9	10年
A コース	卒後初期臨床研修	外傷、 基本手技、 初期対応	大学院、研究（主に基礎研究）：学位取得								
			留学 ——— 専門医取得								
			臨床研修、超専門領域、先端医療研修								
			——— 専門医取得								
B	卒後初期臨床研修	外傷、 基本手技、 初期対応	臨床研修、社会人大学院（臨床研究）								
C			臨床研修、社会人大学院（臨床研究）								
D			・プライマリケア、保存療法 ・リハビリテーション ・短期研修受け入れ（整形外科専攻以外の方も） ・国内外留学（アメリカ、ヨーロッパ）								

図3 卒後8-10年の時点
整形外科専門領域をマスターすることを目指している

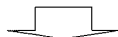
大学としても意識変革し、対応する
姿勢が重要である

整形外科に限らず、大学病院は唯一の研修の場

ではなく、多くの病院で研修できる“現在のシステム”である。したがって大学として新しい制度、新しい意識を持った研修医に対応できるように、大学自身が変革し、対応することが重要と思う。

大学としても意識変革し、対応する姿勢が重要である

- ・研修プログラムは柔軟・多彩に、高い専門性の修得へ
- ・各関連病院の性格を明らかにし、特徴付ける
研修医を集められる病院環境を整備：ソフトとハード
研修医を指導できる力量ある指導者育成



- ・大学は卒前、初期、後期研修までの一貫性のあるプログラム
- ・大学一関連病院で連携、補完した研修プログラムを準備
専門領域、先端からプライマリケア、外傷から慢性疾患
- ・他にない点をアピールできる“新潟”研修プログラムへ
(マイナスをプラスに活用するように)
高品質“新潟ブランド”の医師育成(高技量、好人物)へ

図4 新臨床研修制度への対応

特に研修プログラムについては柔軟・多彩に、高い専門性の修得できるプログラムを準備することがまず第一に大切であろう。さらに後期研修医を集められる病院環境を整備する、これはソフトとハードの両面で必要であろう。また

研修医を指導できる力量ある指導者育成にも力を注ぐことである。優れた指導者はどの研修病院からも求められよう。指導者クラスの医師の育成と流失しない環境作りも重要であろう。

ま と め

大学病院は組織も大きく、また研修指導をおこなってきた長い歴史がある。多くのプラスの点があるが、マイナスの点もあることも事実である。後期研修プログラムを作成するに当たり、他にない点をアピールできる“新潟”研修プログラムの作成をめざしたい。そして高品質“新潟ブランド”の医師育成(高技量、好人物)に努めたいと考える。関係の方々の一層の理解とご協力をお願いする。

参 考 文 献

1) 新潟大学大学院医歯学総合研究科機能再建医学

講座整形外科学分野 <http://www.med.niigata-u.ac.jp/ort/>

- 2) 遠藤直人 編著 久保俊一, 山下敏彦, 齋藤知行, 吉田宗人, 小宮節郎, 金谷文則, 大塚隆信: 図解 整形外科「運動器疾患の診断法」. 金芳堂, 17-29, 2006.
- 3) 荒井勝光, 遠藤直人: 中越地震における新潟大学整形外科の対応. 新潟医学会雑誌 120: 2006.
- 4) 遠藤直人: 運動器(骨と関節, 脊椎, 脊髄)疾患への取り組み: ADLとQOL向上をめざす. 理療 34: 1-9, 2005.
- 5) 遠藤直人, 佐久間真由美: 骨粗鬆症における治療評価法—骨密度, 骨代謝およびQOL評価—. PTM 8: 5, 2005.
- 6) 遠藤直人, 佐藤 豊, 崎村陽子, 山岸 豪, 村沢章, 真柄 彰, 堀井可奈, 大澤治章, 丸山孝子, 渡部裕美子: リハビリテーションの現状と問題点. 新潟医学会雑誌 117: 1-18, 2003.
- 7) 遠藤直人, 徳永邦彦, 遠藤栄之助, 伊藤雅之, 湊泉: 運動器疾患の病態と治療: 骨と関節の健康増進, QOL向上を目指しての取り組み. 新潟市医師会報 384: 2-6, 2003.